76

照夜白

唐玄宗皇帝
常に馬を
玄宗寵愛
乃ち
曹覇み
命じて
世る絵畫
しむ旬日ふ
もつて雲の
ごとく竜池ふ
真龍出て
風雲ふ随つ
されとも

鬼麻毛

相模國住人
小栗十郎が
馬乗り小栗
と云ふ者にて
照姫と云ふ程
君ゆゑ我て
くるひもの
と云ふ
撲殺したる盗人
酒の毒を入て害
せんとしたる小栗
これと
もりて
盗人

きたなし
わっとうんで
取ろうと
するげれ共
ちっく落ちを
盗人ゆるさ
をのごと
鈴ふちろづく
しゝゆゑ
ひとで

生喰　高綱が馬
磨墨　景季が馬

義経本當を洩もるゝ
きざゝし宇治川を渡て
向ふきしへ取かくむ据
梁添を景季佐ゝ木
ほゝ卽る縄二搦二を
あてそのゝしへさを
志ゝ取ふる縄が
る水中ゆくく
するとゝとり
すぐ勝られくぶ
一番ふむその
岸ゆふるとゝタ
景季二陣さを

紫叱撥

貌生之美者
馬力天下乃人
有れのぞむ神ハ外
并幸まづこまり
貌生
物くるひ
妻妾
駿馬
抱る

僧法宣詩

朱鬢飾金鏡
紅粧束素腰似
雪来驚蝶如雲
去飄く
把花含浅汗
柳葉帯餘嬌
騁先将獨立
雙絶不俱標

大内白

たうとうのゐんの
ちやう金院の門
うらく
和よとろうま
さうの
蹉跎野ぞゑ
とくへ小督乃
つぼね
局ぞたつ綵ま
まの
糸れとそ深山
しうふかき
少将仲国君
よるとゑまいり
よる馬なりはも
八月丈夜
さよふる
月ゐ琴の
ね吉成もろべよ
よこ笛を

ゆんべりぐる
とをそすれ
ふ安をそる
ぐとくう

大夫黒

九郎判官源の
義経乃ころも
奥羽秀衡
より送
ろ遍
覚れ忠く昭
世のたゝかすぐれ
て大き〳〵義経
てを秘
おり〳〵が八島
の戦功も年
禮ら松乃
威根成あ〳〵

そ〳〵ものひ〳〵
ろの世馬1
駆ま
りと

孝子馬

むかし大和國の
農まおりこころあ
父母に孝あり
ある日市に出
く売ろのこと
買ひまもれど
痩て見ぐ
もっとも夫
家貧
價の半
こまこと
ろ
家と著

六二〇
カ

撰者　南仙笑楚滿人

画圖　北尾重政

享和二年壬戌正月吉日

本石町三丁目十軒店
東都書林　層山堂　西村宗七板